

上巻目次

訳者まえがき

日本語版への序文

英語版への序文

ハンガリー語版への序文

第1部 近代経済学の基礎——限界革命

第1章 1870年代主観的経済学の概観

第2章 価値の主観的説明

第3章 限界効用による均衡交換比率の決定

第4章 効用逓減の原理にもとづく需要関数の定式化

第5章 ゴッセンの第2法則

第6章 限界効用理論における費用法則

第7章 限界効用理論の批判

第8章 ワルラスとカッセルの一般均衡理論

第9章 限界生産力理論

第10章 資本財の量的測定

第2部 均衡価格理論の発展

第1章 主観的価値理論から合理的選択論へ

第2章 無差別曲線による需要曲線の導出

第3章 企業の利潤極大化行動と供給曲線

第4章 現代の一般均衡理論

第5章 純粋競争の効率性基準

第3部 近代経済学の市場理論

第1章 概 説

第2章 独占のもとでの価格決定

目 次

第3章 チェンバリンの独占的競争の理論

第4章 複占と市場均衡

第5章 独占的要素と効率性基準

第6章 トリフィンによる市場分類

第7章 近代経済学の独占論の批判

第4部 経済分析における時間要素の役割

第1章 経済分析と時間

第2章 調整の遅れと均衡化

第3章 ストックホルム学派の期間分析

第5部 計量経済学の応用

第1章 歴史的概観

第2章 貨幣の限界効用の測定

第3章 マクロ的生産関数の定式化

第6部 近代経済学における歴史と論理

第1章 序 論

第2章 ドイツ歴史学派の観点

第3章 社会-法制派の見解

第4章 歴史的アプローチと論理的アプローチにおける「大きな矛盾」

第7部 均衡理論への貨幣の導入

第1章 フィッシャーによる価格水準の決定

第2章 現金残高アプローチ

第3章 ヴィクセルの価格変動論

上巻注解